■由利公正(三岡八郎) 幕末きっての財政通で、藩の殖産政策・新政府の金融政策に関与、「五ヵ条の誓文」第一原案も起草。

ゆりきみまさ

シボト 朴追放・1829= 越前国福井城下で、藩の御近習番100石の下級武士三岡義知の長男に生まれる。通称三岡八郎。

滑稽+人情本 1835= 6歳：父が江戸詰となり、母の実家に預けられる。

大塩平八郎乱 1837= 8歳：

適塾ホブソンの 1838= 9歳：福井15代藩主の松平齊善が死去し、自分より1つ年長の松平慶永(春嶽)が16代藩主となる。

幼少より、剣・槍・砲術などに精励するが、机上の学問には興味を抱かず、

順天堂始 1843=14歳：松平春嶽が初入国し、初めて拜謁する。

阿部正弘首座 1845=16歳：

孝明天皇 1846=17歳：この頃、ようやく四書五経の素読を終えるほどの晩学、

1847=18歳：西尾十左衛門に西洋流の砲術を学ぶ。

尊徳報徳論 1851=22歳：横井小楠が福井に来遊、その学説に傾倒して、学を志す。

万次郎帰国 1852=23歳：福井藩の財政について、密かに不安を懐き、勘定奉行長谷部甚平に質問をする。

ペリー来航 1853=24歳：父急死で家督を相続。ペリー来航に衝撃を受け、初めて江戸に出、富国強兵・殖産興業の信念を抱く。

開国開港 1854=25歳：藩士50名と共に選ばれて、江戸湾警備に当たる。帰藩後、大小銃並びに弾薬製造掛となる。

松下村塾 1856=27歳：藩士今村伝兵衛長女たかと結婚。

蕃書調所 1857=28歳：*兵器御製造所頭取。兵科掛と藩校明道館への出仕を命じられる。御書院番入を経て、御造掛となる。

五ヶ国条約 1858=29歳：藩火薬製造所再び爆発して閉鎖。上洛して橋本左内に随従。福井藩に招聘することになった横井小楠を迎える。橋本左内に随従して江戸に向かう。松平春嶽が隠居謹慎を命じられる。井伊直弼の暗殺を同志と共に謀るも果たさず、幕府の財政調査を行った後、帰藩。外国貿易の現況、並びに関西における貨物集散と運輸方法調査のため長崎へ出張を命じられる。帰省する横井小楠に随従して、門下生・福井藩士と共に西行。

安政の大獄 1859=30歳：熊本で小楠の住居を訪ねた後、長崎へ至り、越前蔵屋敷の建造に着手。帰藩後、物産総会所の設立を促し、財政整理や物産振興を推進。養蚕事業を奨励。長崎へ医学留学生の派遣を建議。生産御用のため、中国・九州への出張を命じられるも、府中(武生)に至って母急病の報に接し、引き返して看護。薬石効なく、母がコレラで死去。再び長崎へ出張。橋本左内刑死。福井城下で物産総会所が開設。

桜田門外変 1860=31歳：帰藩し、三度目の長崎出張。

遣欧使節 1861=32歳：帰藩し、奉行役見習を拝命。城下毛矢舟場町に宅地を賜う。

生麦事件 1862=33歳：四度目の長崎へ出張後、横井小楠らと共に福井へ向かう。慶永の政事総裁職就任とともに側用人となり、列藩会議を建議し活動したが、

8月18日政変 1863=34歳：藩論が一変、政事総裁職辞職を願った春嶽が許可を得ず帰藩。小楠らと共に挙藩上洛を計画するが断念、推進派一同の処分で、幽閉蟄居となる(4年4ヵ月)。弟の友蔵が家督相続。小楠も辞職して帰藩。

薩摩藩士密航 1865=36歳：

大政奉還 1867=38歳：*坂本龍馬が来福し、城下の旅館[?屋]で会談、抱懐する経済論を披瀝するも、直後に龍馬が暗殺される。<王政復古>後、京都に招かれ、維新政府に徴士・参与職として登用され、御用金取扱方を命じられると、会計基金300万両の募債と金札(太政官札)3000万両を建議して承認される(由利財政)。

明治維新 1868=39歳：*会計基金300万両募集を建議。新政府の綱領五ヶ条(「五箇條御誓文」の草案)を起草。太政官札発行を建議。二条城に京都の商人を召集して御用金調達を論じる。新政府軍費調達のため大坂に赴く。太政官札製造準備のため帰藩。即位拭御用掛拜命式典に列する。福井で歌の師・橋曙寛が死去。明治改元後、天皇御東幸費の調達のため大坂に赴く。太政官札を関東地方に通用させるため東京へ出張。

戊辰戦争終 1869=40歳：紙幣政策は予期した成果をあげられず、病氣静養で帰藩のため、辞職。松平茂昭福井藩知事の補佐を委嘱される。総会所を再設し、越前物産の振興に尽力。小楠が京都で暗殺される。

初の日刊新聞 1870=41歳：祖先の旧姓由利を名乗る。版籍奉還の際に福井藩政に参与、越前藩藩政改革を担当して成果を収める。

廃藩置県 1871=42歳：帰京し、東京府知事になると、

学問のすすめ 1872=43歳：偶発した大火後、銀座の煉瓦街建設を推進して東京の都市改造の端緒を開く。岩倉使節団に随従、

明治6年政変 1873=44歳：この間、府知事を罷免され、欧米を視察して帰国。

佐賀の乱 1874=45歳：副島種臣・板垣退助・江藤新平らと民権議院の設立を建言。群馬県の中小坂鉦山開発と鉄鉦事業に着手。

初の民間工場 1875=46歳：元老院創設に当たり議官に任命されたが

三つの反乱 1876=47歳：*まもなく辞し、

西南戦争 1877=48歳：東京府庁へタールペーパー葺見本家屋を献じる。

大久保暗殺 1878=49歳：中小坂鉦山解散。東京府板橋に隠棲し農事を実践、乳牛の飼育に努める。

琉球処分 1879=50歳：神田昌平橋を新装して営利化し、東京府へ納める。

岩倉具視没 1883=54歳：赤坂仲之町に転住。

内閣発足 1885=56歳：元老院議官に再任、

国民之友始 1887=58歳：子爵を授与され、華族に列する。

帝国憲法発布 1889=60歳：

帝国議会始 1890=61歳：松平春嶽死去。府県債ヲ起スベキ意見書を起草。貴族院議員当選、爵香間抵候となる。

足尾鉦毒始 1891=62歳：赤坂区会議長就任。新宿御料地内に転住。海江田信義と共に農工銀行法案を議会に提出。

大本教 1892=63歳：郷里の福井で「実業談話」を講演。臨時製鉄事業調査委員就任。

日清戦争始 1894=65歳：有隣生命保険株式会社設立、社長に就任。

Bushidou 1899=70歳：日本興業銀行期成同盟会会長就任。

ビアノ国産化 1900=71歳：史談会会長就任。芝区車町に転住。

田中正造直訴 1901=72歳：正三位に陞叙。

日露戦争終 1905=76歳：妻たか(高)が死去。

満鉄発足 1906=77歳：勲一等を賜る。

韓国反日暴動 1907=78歳：有隣生命社長を辞職。

伊藤博文暗殺 1909=80歳：没した。

旭日大綬章を授けられ、品川海目安寺の岩倉具視霊廟の隣に葬られる。

新人物往来社「由利公正のすべて」、「人づくり風土記(福井)」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、